

2-5					
主題	現場で分かりにくいと感じた日本語				
副題	学んだ日本語と、実際に現場で使う日本語との違い				
キーワード 1	カタカナ語	キーワード 2	略語	研究(実践)期間	2ヶ月

法人名・事業所名	日本福祉教育専門学校 介護福祉学科				
発表者(職種)	ココウゼン、チンゼン(学生2名)				
共同研究(実践)者	マニス、ココウゼン、クアン、チンゼン、ゴトウヨウ 他1年留学生				

電話	03-3982-2511	FAX	03-3982-5133
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 介護福祉学科 1年生52名、日本人18名、留学生34名 2年制の介護福祉養成校として留学生を迎え入れて5年、現場で働く留学生には、 介護福祉士養成のカリキュラムと日本語の指導を実践している。				
-------	--	--	--	--	--

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

今、日本では少子・高齢化が進んでおり、介護人材不足と考えられるため、外国人の介護職の受け入れは重要な施策となっている。近年、日本福祉教育専門学校・介護福祉学科の入学者の中では、留学生が2/3を占めている。また、日本の奨学金制度を利用して、介護福祉学科を選択する留学生が増えている。

一方、実際に現場で働く留学生について、言語の応用に伴う業務への支障を経験していることが少なくない。外国人にとって、日本語の指示を聞き取り、理解して、そして的確な対応をすることは、容易なことではないと考えられる。このような状況があり、事業所としての課題であった。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

本研究では、日本福祉教育専門学校で勉強している留学生を対象にアンケート調査をおこなったものである。この研究では、現場で問題になることは何か、ということを明らかにし、この状況を改善することを期待して、示唆を得ることを目的とする。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

本調査では、日本福祉教育専門学校・介護福祉学科一年生の留学生を対象として、国・施設種類によってアンケート調査をおこなったものである。調査対象者のアルバイト先、あるいは実習先で使った日本語でどのような問題を抱えているか、調査表に沿って答えてもらった。

調査期間：2週間

配布数：1枚

回収数：ベトナム学生2枚、中国学生3枚、台湾学生2枚、ネパール学生1枚

#### 《4. 取り組みの結果》

分析の結果、自分の日本語の知識については、専門用語・施設用語を覚えること、言い回しの聞き取り、指示の理解などに対し、難しいと答えている。専門用語の中にはカタカナ語が多く、カタカナ語に不慣れな外国人にとっては、覚えにくいことはがわかった。また、業務の場合は縮約形の表現やその施設の中で作られた言語に戸惑うことも少なくない。

相手の言葉の問題について、話し方が分かりにくい、話すスピードが速すぎると感じることもある。そのため、外国語による電話対応に苦手とする者も多い。また職員からの指示は、専門用語を用い、命令形の短い指示が多いため、その指示から何をどうするかを理解して、すぐ行動に移すことはさらに難しいと感じている。

#### 《5. 考察、まとめ》

調査結果から、外国人にとって不安がある点があった。業務上一番問題となるのは、職員からの指示を聞きとったり、理解したりすること、さらに他人に伝えることが難しいということである。

特徴的な点として、カタカナ語、略語、不十分な説明、施設内用語などが挙げられる。留学生として学んだ日本語と対照し、実際に現場で使う日本語がより複雑になることがわかった。

今回の調査結果を学校全体で共有し、現場の日本語理解への努力を継続させることが必要である。また現場の職員の方にも、このような状況を理解して、外国人にとって働きやすい環境を作ることをお願いしたい。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

石原美知子「日本の医療現場における中国人看護師とコミュニケーション—病院赴任直後の言葉の問題を中心に—」2012年

山崎隆志「看護・介護分野における外国人労働者の受け入れ問題」『レファレンス』2006年

#### 《8. 提案と発信》

この調査で、介護分野で働いている留学生たちにとって、理解しづらい日本語を中心としたコミュニケーションに関する問題点に焦点をあてた。言葉の問題には業務への支障だけではなく、職場の人間関係にも強い関連性がある。言葉の問題を克服するのは、職場での適応力を向上させる要因と考えられる。外国人に対しては、略語ではなく、分かりやすい指示をだすことが必要だと考える。また、受け入れ側には、基本的な専門用語や施設内用語についての情報を共有した方がよいと思う。このような取り組みを通じて、外国人と日本人お互いに理解し合い、介護現場で日本人の介護スタッフと協力して働き、成長していくことができると考えられる。